

古文書解説にチャレンジ！ その12 解答

【筆耕】

乍恐以書付奉願上候

多摩郡廻り田村

百姓吉左衛門忩

徳次郎

巳三拾三才

右者多摩郡廻り田村百姓吉左衛門奉申上候、私義持高九斗壺升所持仕家内妻子孫共九人暮ニ御座候、然ル処忩徳次郎義平日農業不情之上、大酒を好出先ニて無益之金錢遣捨身持不束ニ付、親類組合村役人は迄再応異見差加候得共、一向取用不申迎も末々見届兼候間、此度親類組合村役人一同相談之上勘当御帳付

奉願上候、且右徳次郎身分ニ付何方も

出入掛り合無御座候間、何卒

御慈悲を以右願之通御聞濟成下候ハ

難有仕合奉存候、以上

多摩郡廻り田村

文化六巳年九月 願い人 百姓 吉左衛門

親類 勘兵衛

組合 才兵衛

年寄 庄左衛門

名主 九兵衛

伊奈助右衛門様

御役所

【読み下し】（筆耕を読み言葉にしたもの）

恐れながら書付を以て願い上げ奉り候

多摩郡廻り田村

百姓吉左衛門忩

徳次郎

巳三拾三才

右は多摩郡廻り田村百姓吉左衛門申し上げ奉り候、私義持高九斗壺升所持仕家内妻子孫共九人暮に御座候、然る処忩徳次郎義平日農業不情の上、大酒を好み出先にて無益の金錢遣い捨て身持不束に付、親類組合村役人は迄再応異見差し加え候得共、一向取用申さず迎も末々見届け兼候間、此度親類組合村役人一同相談の上勘当御帳に付け

願い上げ奉り候、且右徳次郎身分に付何方よりも

出入掛り合無御座候間、何卒

御慈悲を以て右願いの通り御聞き済し成し下され候はば

有り難き仕合せに存じ奉り候、以上

多摩郡廻り田村

文化六巳年九月 願い人 百姓 吉左衛門

親類 勘兵衛

組合 才兵衛

年寄 庄左衛門

名主 九兵衛

伊奈助右衛門様

御役所